

第2章 山口市の景観特性と課題

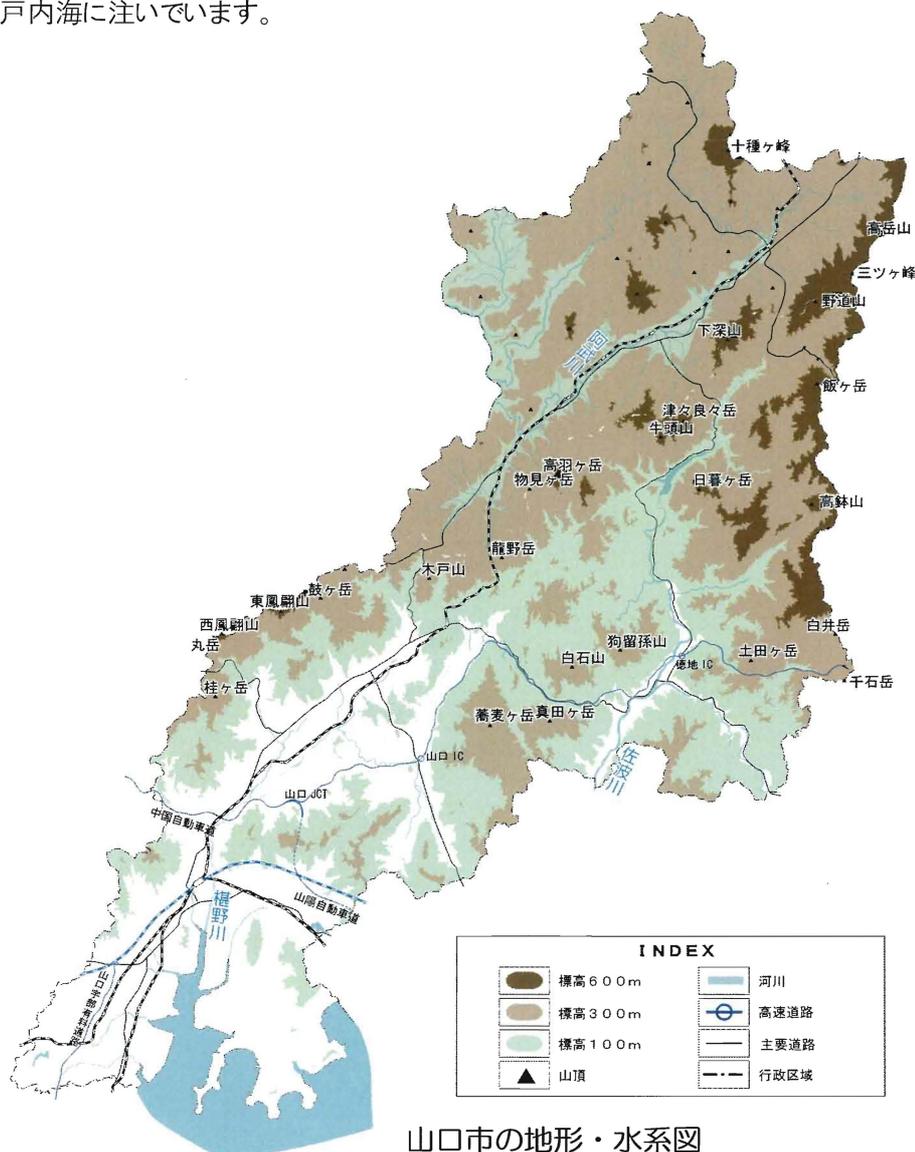
1. 山口市の概要

1-1. 位置・地勢

山口市は、山口県の中央部に位置し、北は萩市、島根県鹿足郡津和野町および吉賀町、東は防府市、周南市、西は美祢市、宇部市に接しており、南は瀬戸内海に面す、南北 58km、東西 46km、面積 1023.31 k m²の広域な行政区域を有しています。

本市の北部は、野道山、飯ヶ岳、十種ヶ峰、高岳山など中国山地に属する標高 700～1,000m の山なみが続いており、山間を阿武川、佐波川が流れています。

本市の中央部は東鳳翔山山系、真田ヶ岳山系の 2 山系が山口盆地を取り囲み、この山口盆地を中心に市街地が形成されており、榎野川が盆地を北南に縦断し、本市南部の広大な平地を経て、瀬戸内海に注いでいます。



山口市の地形・水系図

1-2. 地域の歴史

本市の中心市街地周辺は、室町時代に周防国の領主となった大内弘世(おおうちひろよ/24代)が京の都に模してまちづくりを行ったと伝えられており、中心部を流れる一の坂川は鴨川に見立てられたといわれています。また、大内氏は朝鮮王朝や明国との交易を積極的に行うなど、政治だけではなく経済発展や文化の振興にも力を入れたため、山口は「西の京」と呼ばれるほどに栄華を極めました。

その後、毛利氏がこの地を治めるようになった頃、全国各地において戦乱が度重なり、関ヶ原の戦いをきっかけに政治の中心が萩へと移ったことにより、山口のまちも萩城下と三田尻(防府市)を結ぶ「萩往還」と阿東地域を經由し小郡地域から石見へ向かう「石州街道」の交差する要所となり、宿場町として発展しました。

江戸時代の終わり、藩庁が萩から山口に移されたことにより、再び政治の中心を担うこととなり、行政、商業、文化、教育等の高次都市機能が集積するまちが形成されました。

また、徳地地域では、平安時代の終わり頃に、東大寺の再建を目的に俊乗坊重源が周防国へ下向した際、木材の主要採集地とされ、多くの建築用材を奈良に送ったとされています。

阿知須地域では、江戸時代には廻船業が栄え、阿知須浦には防火を目的とした居蔵造りの町並みが形成されました。

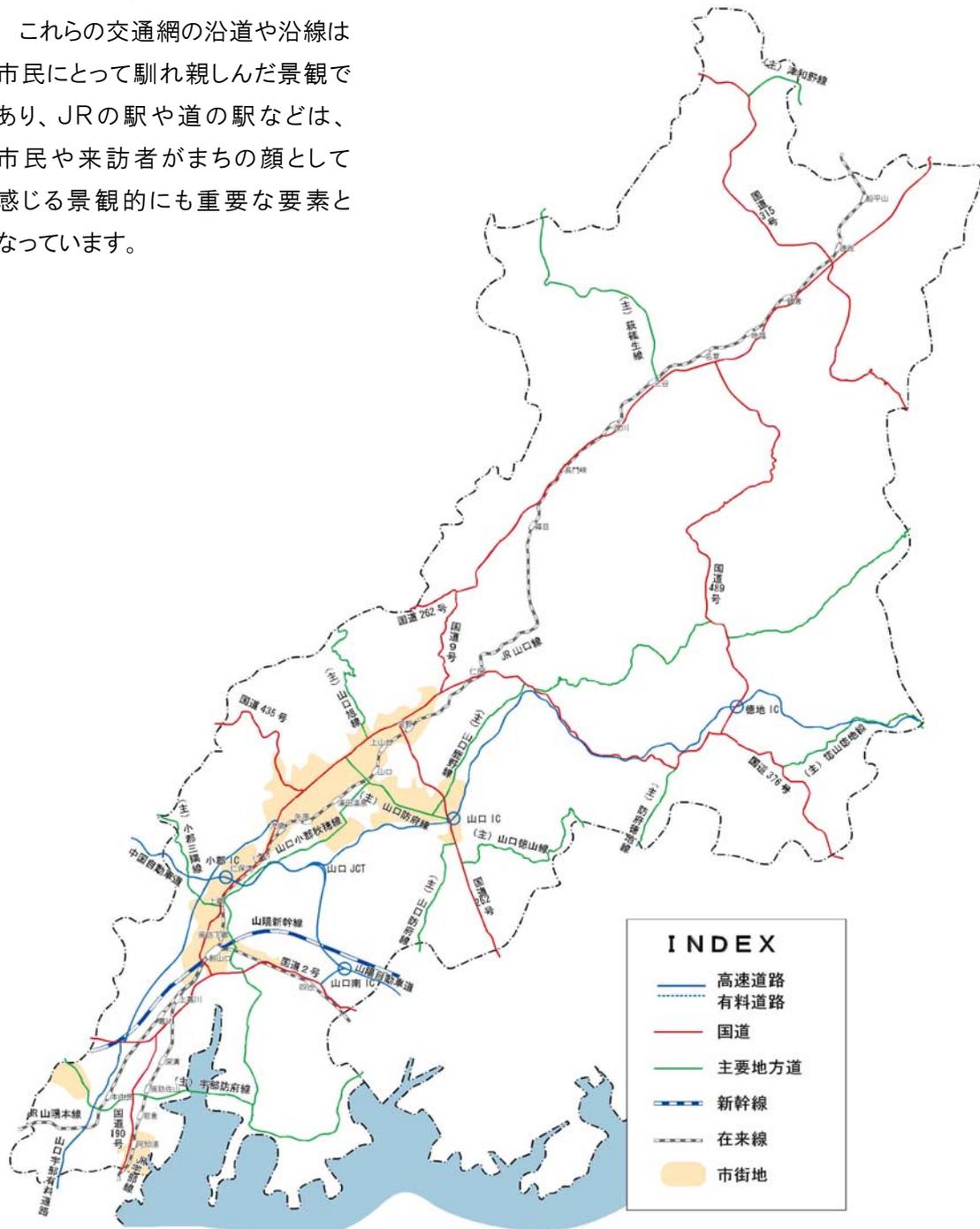
秋穂地域では、藩政時代に製塩業や廻船業が盛んになり、このころに、秋穂八十八ヶ所霊場が性海法印の手により開かれています。

1-3. 交通網

本市は、山陽自動車道や中国自動車道、国道2号や国道9号、国道262号をはじめとした広域道路網が東西南北に走っており、山口県内の主要都市に1時間前後で移動できる交通の結節点となっています。

また、JR新山口駅はJR山口線、JR山陽本線、JR宇部線の3路線が結節する駅であるとともに、山陽新幹線の停車駅であり、本市の広域交通の玄関口としての役割を担っています。

これらの交通網の沿道や沿線は市民にとって馴染み深い景観であり、JRの駅や道の駅などは、市民や来訪者がまちの顔として感じる景観的にも重要な要素となっています。

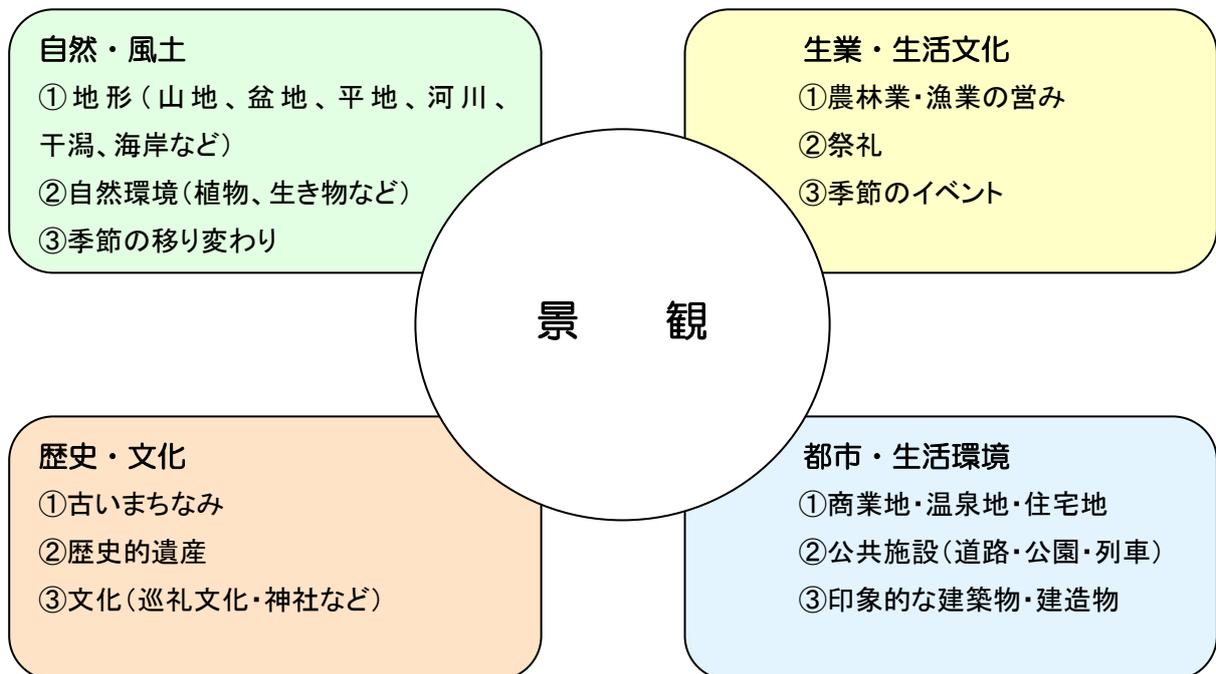


山口市の道路・交通網図

2. 山口市の景観構成要素

景観は、山や海などの自然、自然と調和した田園や集落などの生活の営み、地域で長い年月をかけて積み重ねられてきた歴史や文化、そして商業地や住宅地などの土地利用をはじめ、私たちの日常生活に密着した道路や公園、鉄道の公共施設など、私たちが生活の中で目にするさまざまなモノ(要素)で構成されています。

これらの要素は、「自然・風土」、「生業・生活文化」、「歴史・文化」、「都市・生活環境」の大きく4つに分別されることから、本市の景観を構成する要素を4つに分類し整理します。



2-1. 自然・風土

本市は、山地～盆地～平地・干拓地～瀬戸内海と変化する地形が特徴で、それらの地形を素地に、豊かな自然で溢れています。河川や海岸などの地域の人々に親しまれている身近な自然景観や、天然記念物や多様な生き物など貴重な自然環境を象徴する景観まで、さまざまな自然・風土に関する景観の要素を見ることができます。

■市街地の背景となる山なみ

市街地を取り囲む山なみは、盆地という地形特有の景観を印象づけており、また、市民が日常的に目にする山口らしい景観の素地となっています。

また、北部では、十種ヶ峰や高岳山などの山々がそびえ、青々とした夏や雪をかぶる山頂など、季節とともに地域の人々に親しまれている景観となっています。



風致地区（鴻南地区）



特徴的な山容の十種ヶ峰



市街地を取り囲む山なみ



白石山

■潤いをもたらす河川・渓谷

本市は、榎野川水系と佐波川水系、阿武川水系の3つの大きな流域からなり、市内各地に大小さまざまな河川が流れています。そのうち榎野川は、中央部の市街地を縦断し、平地を経て瀬戸内海へと流れる軸となる景観要素となっています。

さらに、山間では名勝長門峡をはじめ、美しい渓谷も見ることができます。



榎野川



佐波川



阿武川



名勝・長門峡の紅葉

■変化に富んだ海岸線と海

南部は瀬戸内海に面しており、榎野川河口の干潟や干拓地、秋穂地域の入り組んだ海岸などにより変化に富んだ海岸線が続き、穏やかな瀬戸内海の水面からなる美しい海辺の景観を見ることができます。



秋穂地域の海岸線

■豊かな自然環境

北部を中心とした中山間地域には、徳地地域の大原湖周辺の長門峡県立自然公園など、豊かな自然環境が広がっています。

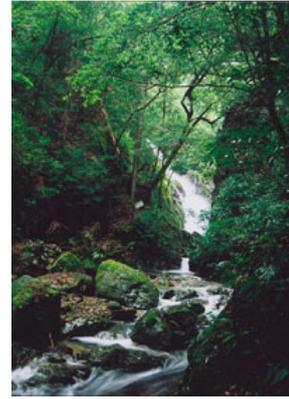
また、市内には、船平山のゆうすげやレンゲツツジ、高岳山の高山植物、ノハナショウブ等の自生地など、貴重な自然環境も見られます。



大原湖



船平山のゆうすげ



仁保地区・犬鳴きの滝

■多様な生き物

豊かな自然環境を背景に、夏にはホタル、冬には渡り鳥など、季節を感じさせる生き物を見ることができ、また、カエル、メダカ、ツバメやトンボなど、多くの人になじみ深い生き物も身近で見られます。



仁保川のホタル



きらら浜の渡り鳥

■季節の風物詩

春の桜並木や初夏の新緑、秋の銀杏並木や冬の雪景色など、市内各地で季節の移り変わりを楽しむことができ、生活に潤いをもたらしています。

特に、一の坂川沿いの桜並木や秋穂地域の菜の花畑、阿東地域の雪景色などは、地域の市民活動や気候の違いが創りだす季節の景観であり、多くの市民に親しまれています。



桜並木（一の坂川沿い）



銀杏並木（山口駅通り）



菜の花畑（秋穂地域）



一面の雪景色（阿東地域）

■ご神木・鎮守の森

市内各地の神社や集落に、地域のシンボリックな樹木等が大切に保全されています。

なかでも、ムクノキ等は、古くから神の依代として畏敬の対象とされているものがあります。



竜王社のムクノキ巨樹群



善城寺のタブノキ

2-2. 生業・生活文化

本市では、絶え間ない生産活動の表れとして見られる生業の景観や、季節の移り変わりと共に風物詩として身近に感じられる祭礼などの景観が見られます。これは、人々の生活の中で生まれ、親しまれている景観であり、地域の生活文化と共にある景観の一つです。

■農林業の営みの景観

佐波川沿いや阿武川沿い、樺野川河口部の平地を中心に、まとまった美しい農地が広がっており、地域の活力を感じさせられる美しい景観の一つとなっています。

また、市内北部を中心として見られる手入れの行き届いた森林や、阿東地域のりんご園など、特徴ある農林業の生業の景観を見ることができます。



石垣の棚田（徳地地域三谷地区）



広々とした農地



りんご園（阿東地域鍋倉地区）



手入れのされた明るい森林

■漁業の営みの景観

本市の南部は瀬戸内海に面しており、秋穂漁港や大海漁港、山口漁港などの漁港では、係留された漁船や船の出漁など漁業活動の活力を感じさせる景観を見ることができます。また、秋穂湾では塩田跡地を活用して車エビの養殖が行われており、特徴ある景観の一つとなっています。



車エビの養殖場のある秋穂湾

■自然と調和した生活の景観

中山間地では、赤瓦の農家住宅や棚田など、周囲の自然と調和した中国山地周辺ならではの里山景観を見ることができます。

また、市街地近くにおいても、周囲の田園景観と調和した落ち着いたある農住地の景観を見ることができます。



赤瓦の農家住宅



徳地地域の山間集落



まとまりのある田園集落

■貴重な水源としてのため池

ため池は、開作(新田開発)や用水不足解消を目的に、貴重な水源として人工的に造成された池であり、市内でも大小さまざまなため池を見ることができます。

その中でも長沢池は、毛利氏の藩政時代に進められた新田開発にあわせて、灌漑用として築かれた大規模なため池であり、現在では農業用の水源としてのみならず、身近な憩いの水辺空間として親しまれています。



長沢池

■祭礼の景観

室町時代、大内氏による京の文化の移入を受けて始まった八坂神社の祇園祭や、五穀豊穡や家内安全を祈念した小鯖代神楽舞、大名の参勤交代を模した生雲八幡宮の奴道中などの伝統的な祭礼は、大切に受け継がれた地域の文化を感じられる景観の要素です。



山口祇園祭(八坂神社)



生雲八幡宮奴道中



小鯖代神楽舞

■季節の行事

季節を感じられる景観として、地域ごとに開催される祭やイベント等があります。山口七夕ちょうちんまつりをはじめとした毎年変わらない季節の行事の光景は、日常的に目にする地域の景観が非日常の美しい景観として認識される機会であり、市民に親しまれている景観の要素となっています。



山口七夕ちょうちんまつり



クリスマスのライトアップ
(道の駅：仁保の郷)



えび狩り選手権

2-3. 歴史・文化

本市の中心市街地周辺は、室町時代に、大内氏により京の都を模したまちづくりや文化の移入が進められ、「西の京・山口」と呼ばれた歴史を今に伝える多くの寺社や史跡、旧街道沿いの古いまちなみなど、歴史的な景観要素が多く残っています。また、かつて廻船業で栄えた港町の歴史を有する阿知須地域や、八十八ヶ所の札所と巡礼文化が受け継がれている秋穂地域など、それぞれの地域において、特徴ある歴史・文化的な景観要素を見ることができます。

■大内氏ゆかりの歴史的な資源

中心市街地周辺には、大内氏ゆかりの歴史的な資源が数多く残され、歴史の風情を今に伝える景観として、市内外の多くの人々に親しまれています。



京の鴨川に見立てられたという一の坂川



龍福寺
(大内氏館跡・大内義隆の菩提寺)

■歴史を感じさせる道すじと古いまちなみ

毛利氏の時代になると山口から萩へと政治の拠点が移され、山口の中心部は萩と山口を結ぶ萩往還(萩街道)と、石見から小郡・厚狭へ向かう石州街道(山陰道)の交差する要所となりました。現在でも当時の面影を感じることもできる古いまちなみが残っています。



塹小路の風情あるまちなみ(萩往還)



龍福寺参道からの眺め

■武家屋敷跡周辺のまちなみ

大内御堀地区の問田では、美しい生垣や庭の松等からなるまちなみを見ることができます。これは、毛利氏の家臣であった益田景祥氏が問田に居を構え、武家町として栄えた当時の風情あるまちなみの面影が受け継がれ、今も見ることが出来る景観といえます。



武家屋敷跡周辺
(大内御堀地区問田)

■廻船業で栄えた港町のまちなみ

阿知須地域の縄田地区には、江戸時代から昭和初期にかけて、廻船業の港町として栄えた歴史があり、当時の趣を今に伝える白壁住宅の古いまちなみが残っています。



白壁住宅の古いまちなみ
(縄田地区)

■近代化の歴史的遺産

明治以降、洋館などが多く建てられ、市民らの保存運動等により、その多くが現在も市中心部に残り、近代化の象徴となる景観の一つとなっています。

特に、クリエイティブスペース赤れんがは、大正7年に旧県立山口図書館の書庫として建てられた建物を活用した彩りあるまちづくりを担うアートスペースとして市民に親しまれています。



山口県立山口高校記念館



クリエイティブスペース赤れんが

■地域の歴史的遺産

各地域には縁のある人々に関する歴史的な資源が残されています。俳人・種田山頭火は山口市に縁があり、昭和はじめ頃に暮らしていたとされる住宅(其中庵)が復元されています。また、仁保地区の小説家の嘉村礒多生家や、徳地地域では重源上人が造った岸見の石風呂など、地域の人々に親しまれている景観の要素となっています。



嘉村礒多生家

■秋穂八十八ヶ所霊場と巡礼文化

江戸時代、性海法印が四国八十八ヶ所巡りの後、各御符と敷地の土砂を受け、秋穂地域に霊域を定めて札所としたのが始まりとされ、名田島地区～秋穂二島地区～秋穂地域にかけて八十八ヶ所霊場(札所)が分布しており、札所である寺院や巡礼する人々の様子は、地域固有の景観となっています。



福楽寺
(第6番、7番札所)



巡礼の風景

■地域に親しまれている寺社

市内には、数多くの由緒ある寺社があり、境内の豊かな樹木や美しい花々などと一体となって、周囲に落ち着きと風格ある印象を与える重要な景観要素となっています。

特に、国宝瑠璃光寺五重塔では、周囲の自然と調和した四季折々の景観を見ることができます。



国宝瑠璃光寺五重塔
(香山公園からの眺め)



両足寺の紅葉

■歴史的な緑の景観

城跡(山城跡)や古墳などの歴史的な意味を有する緑は、まちの歴史の語り部であり、他の自然の緑とはまた違った趣を与えることも多く、地域の歴史的なシンボルとなる緑の景観といえます。



高嶺城跡



浄福寺古墳の緑

■鉱山の産業遺産

阿東地域の蔵目喜地区は、昭和30年代まで鉱山として栄えた歴史を持ち、露天掘跡や製錬所跡などの近代化を支えた産業遺産が残されています。



蔵目喜桜郷鉱山跡（露天掘跡）

2-4. 都市・生活環境

本市は県中部に位置する県庁所在都市であり、中心商店街や湯田温泉街などの産業活動と結びついた特徴ある景観が形成されています。また、中心市街地周辺には多様な施設が整備されており、緑豊かな自然と調和した美しい都市環境や潤いある生活環境を印象づける景観を見ることができます。

■商業地のにぎわい

商業地のにぎわいは、個々の店舗での活気ある商業活動や、それらが連続する商店街としてのまとまり、またそこを訪れる人々や行き交う人々などからなる光景であり、地域の産業をベースとした活力と明るさを感じさせる景観の要素です。



中心商店街（アーケード）

■街なかの温泉地

湯田温泉は、傷ついた狐が温泉に浸かりその傷を治していたという「白狐伝説」にその由来があり、県道204号線を中心に旅館や店舗が数多く集積する市街地立地型の温泉地です。路地や公園には足湯が整備され、温泉地の特性を生かした景観を見ることができます。



湯田温泉のまちなみ



湯田温泉にある足湯

■良好な住環境を有する住宅地

住宅の外観や敷地内での緑化など、地区全体として調和した景観を形成している住宅地では、生活の潤いやまとまりのあるコミュニティを感じさせ、快適性や暮らしやすさを高めています。



地区計画により保たれているまとまりある住宅地



緑化等の外構に配慮した住宅地

■身近な水辺・親水空間

身近に水辺と親しむことのできる空間は、自然を感じ、触れることができる場であるとともに、環境の豊かさや生活の中での潤いを感じさせてくれるものであり、市民に親しまれている景観の要素です。



一の坂川



矢原河川公園

■高台からの眺望

日常的な目線と違い、高い場所などの展望地から自分たちの市街地を望む眺望景観は、今のまちの姿への関心を持つ大きな契機です。その姿が美しいものであればあるほど、まちへの愛着や誇りの醸成につながる重要な景観要素の一つです。



緑豊かな中心市街地の眺め（山口県庁より）



広がりのある平地の眺め（朝日山より）

■まちのシンボルとなる通り

緑豊かな街路樹や広い歩道、沿道の建物など道路と周辺が一体となった景観を形成している通りは、そこを利用する人にとって快適な公共空間であるだけでなく、まちを印象づける景観となっています。



パークロード（初夏）



パークロード（紅葉）

特に、山口市役所から山口県庁までの通りは「パークロード」の愛称で親しまれており、山口大学前の通り（通称：山大通り）は市民活動により美しいケヤキ並木が維持されています。



山口駅から市役所までの通り

■まちのシンボルとなる公園

豊かな緑や美しい花々などからなる公園は、市民にとって憩いの場となるだけでなく、周辺に潤いや季節感をもたらす景観の要素の一つです。

維新百年記念公園や山口きらら博記念公園は広域的な公園として、スポーツをはじめ、さまざまなイベントが実施されており、中央公園は隣接する山口情報芸術センターと共同してアートイベントが実施されるなど、それぞれの特徴を生かした公園として市民に親しまれているほか、まちのシンボリックな景観を有しています。



山口きらら博記念公園



中央公園

■列車の景観

JR山口線などの鉄道は、子どもからお年寄りまで、また、観光客などのまちを訪れる人々の重要な交通手段であるとともに、周囲の山なみや市街地を背景に列車が走っている姿や駅舎・ホーム等の景観は、市民に身近に親しまれている景観の要素の一つとなっています。

特に、美しい自然を背景にSLが走る景観は、多くの人に親しまれている特徴的な景観であるとともに、篠目駅に残る給水塔など、歴史的な遺産も残っています。



列車（JR山口駅）



JR新山口駅の1番ホーム



自然の中を走るSL



篠目駅の給水塔

■シンボリックな建造物

サビエル記念聖堂や中原中也記念館など、個々の建物がその役割をふまえた上で外観・外構を洗練し、周囲の景観と調和している際、その建物は市民にとってシンボリックな存在となる景観の要素です。



サビエル記念聖堂



中原中也記念館

■大規模構造物の景観（橋・ダム）

榎野川河口部にかかる周防大橋等の橋梁や山間に整備されたダムなど、大規模な構造物は周囲の景観に大きな影響を与える要素であるとともに、時に、その姿と周囲の景色が一体となって、シンボリックな景観となっています。



周防大橋
（藤尾山公園からの眺め）



江畑溜池堰堤

3. 山口市の景観特性

私たちが普段目にする景観は、山頂から遠くの方々を見たときや目の前に広がる海岸など、ある地点やある場所からの写真的(代表的)な眺めである「シーン景観」と、自動車や鉄道など車窓からの眺めが次々と移り変わる「移動に伴い変化する景観(シークエンス景観)」の大きく2つに分けられます。

シーン景観は、その土地の地形や見る場所、見る対象などが影響を与える景観であり、このような景観は地形による地域の特性といえます。また、移動に伴い変化する景観(シークエンス景観)は、地域の特性である「シーン景観」をつなぐ軸として捉えることができる景観特性です。

本市では、これら2通りの景観の見方を基本に、景観特性を整理することとします。

3-1. 地形から見る景観特性 ~4つの景域~

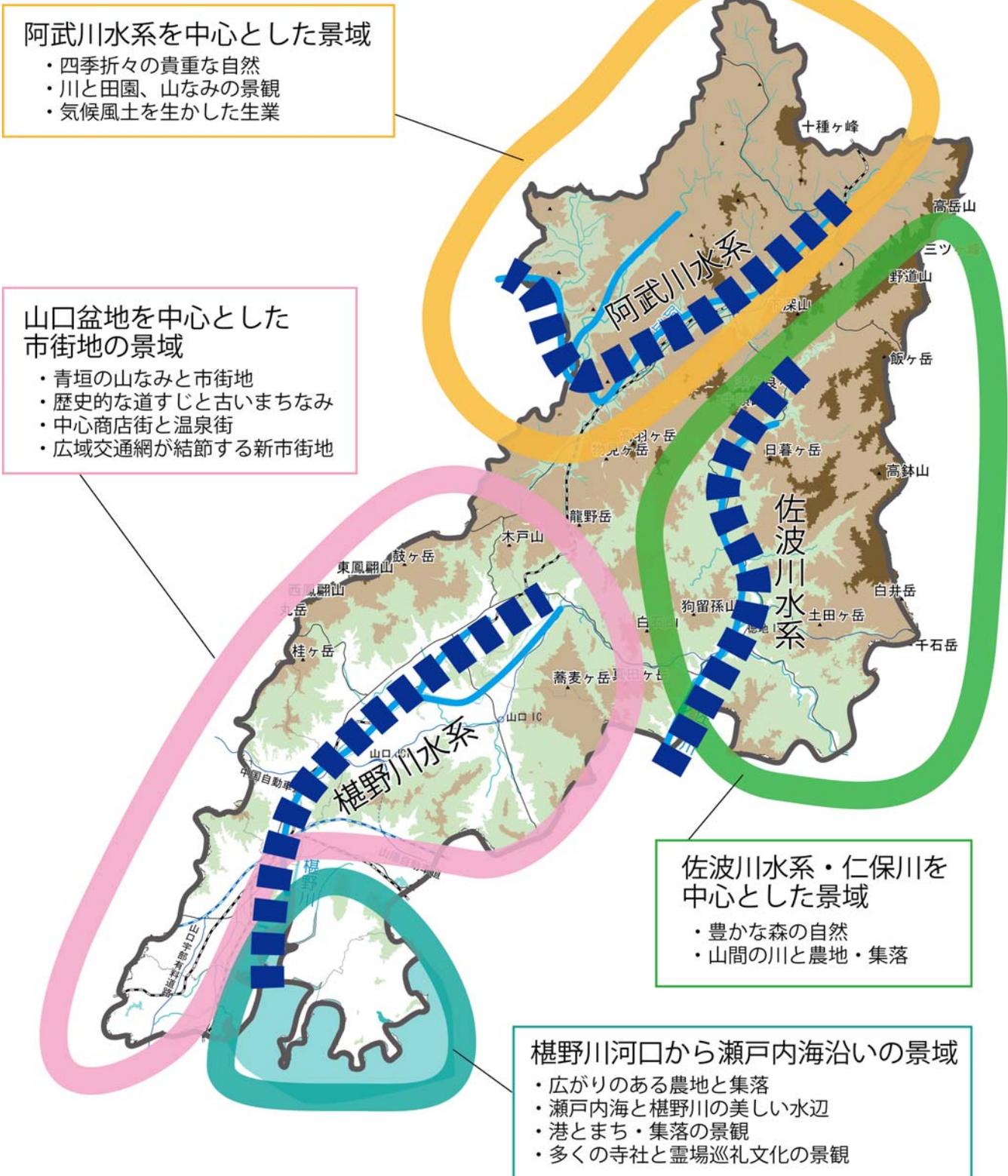
本市は、1市5町の合併により県下で最も広い行政区域となり、北は中国山地の山間部から南は瀬戸内海まで多様な地形を有しています。

それらは、阿武川水系を中心とした地形、佐波川水系・仁保川を中心とした地形、山口盆地を縦断し瀬戸内海へ注ぐ榎野川水系を中心とした地形の大きく3つに分けることができ、また、榎野川河口の山口地域名田島地区から秋穂地域にかけては、江戸時代からの干拓地と入り組んだ海岸からなる他とは異なる地形が見られるため、本市の景域は以下の4つの景域に分けることができます。

- ◆ 阿武川水系を中心とした景域
- ◆ 佐波川水系・仁保川を中心とした景域
- ◆ 山口盆地を中心とした市街地の景域
- ◆ 榎野川河口から瀬戸内海沿いの景域

これらの地理的条件や気候風土、地域の歴史・文化や産業活動などを基に、市内を4つの景域に区分し、景域ごとの景観特性を「自然・風土」、「生業・生活文化」、「歴史・文化」、「都市・生活環境」の景観構成要素と市民アンケートの結果等をふまえて整理します。

地形から見る景観特性 (4つの景域)



(1) 阿武川水系を中心とした景域(主に阿東地域)

① 四季折々に変化する貴重な自然景観

阿武川の清流と巨岩群、木々に覆われた断崖絶壁が見事な渓谷美を織りなす長門峡は、夏の新緑、秋の紅葉、冬の雪景色などの四季折々の変化を見ることができます。また、船平山のレンゲツツジや徳佐八幡宮のしだれ桜など、恵まれた自然が四季の変化にさらなる彩りを添えます。



名勝長門峡

② 阿武川と田園、山なみからなる景観

阿武川は景域を北から南に流れ、阿武川と平行して国道9号とJR山口線が整備され、圃場整備された田園が阿武川周辺から山裾まで続き、山地はそれらを取り囲むように連なっていることから、奥行きのある田園とその背後に連なる山なみの景観を見ることができます。



広大な田園と山なみ

また、JR山口線では夏期を中心にSLやまぐち号が運行しており、田園風景の中を走り抜ける様子は風物詩として多くの人に親しまれています。

③ 気候風土を生かした特色ある生業の景観

平均標高が約300mと比較的高いため、夏は涼しく、冬の寒さが厳しい寒冷地であり、これらの気候風土を生かして、鍋倉地区を中心にりんごの栽培や、東畑地区では蕎麦が栽培されており、また、山裾の緩やかな丘陵地では大規模な農場が営まれています。

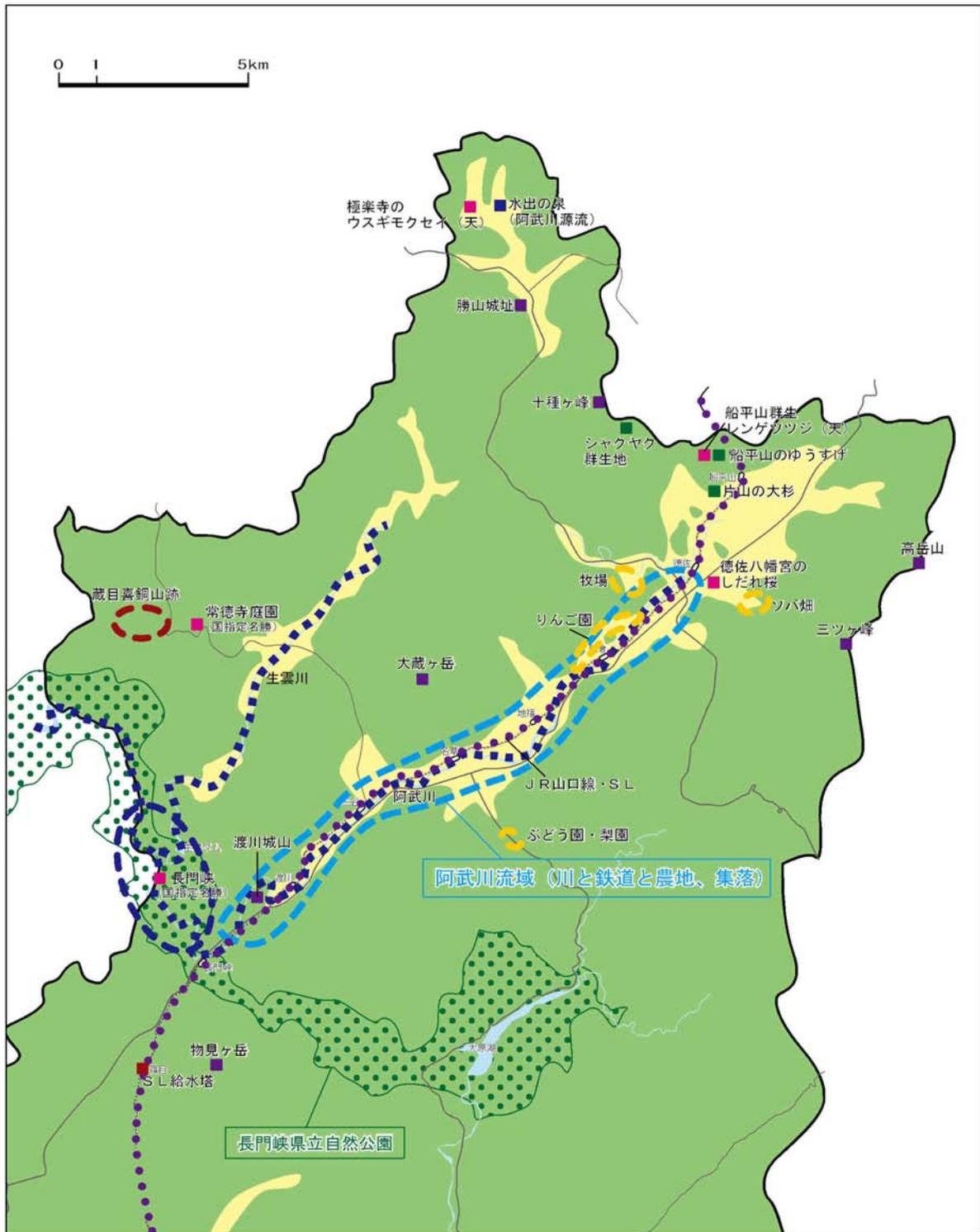


りんご園

【阿武川水系を中心とした景域の景観要素】

分類	概要
自然・風土	長門峡、レンゲツツジとゆうすげ(船平山)、山なみ(高岳山、十種ヶ峰など)、阿武川 など
生業・生活文化	広大な田園、りんご園(鍋倉地区)、大規模な農場、赤瓦住宅の農村集落 など
歴史・文化	蔵目喜桜郷鉾山跡、渡川城山跡 など
都市・生活環境	JR山口線(SLやまぐち号) など

阿武川水系を中心とした景域における景観資源の分布



- 水辺（河川）
- 水辺（ダム湖）
- 滝・溪谷等

- 山なみの眺望（視点場）
- 文化財・天然記念物
- 地域における歴史的資源
- 主な樹林地

- 特徴ある生業の景観
- 流域のまとまりある景観
- 歴史的な集落

<土地利用>

- 山地・丘陵地
- 農地・集落地
- 市街地

(2) 佐波川水系・仁保川を中心とした景域(主に徳地地域と仁保地区)

① 豊かな森からなる自然景観

佐波川のダム湖である大原湖周辺は、湖畔の桜や、森林セラピー基地に指定されている滑山国有林など豊かな自然環境が保全されており、阿武川の名勝長門峡と合わせて長門峡県立自然公園に指定されています。

佐波川は大原湖を抜け、防府市を経て瀬戸内海へ流れており、佐波川に沿って山地が幾重にも連なっています。白石山や真田ヶ岳などの山頂からは眼下の佐波川と、両岸沿いに続く農地やふもとの集落等が見え、また、目の前にはいくつもの稜線が重なるように続いています。

また、^{なめらぎょう}滑峡や観音の滝など、豊かな山の緑と清流による美しい自然景観も多く見られます。



豊かな水を湛える大原湖



日暮ヶ岳からの眺望

② 山間の川と農地・集落からなる景観

佐波川と仁保川は山間を縫うように流れ、まとまった農地は河岸から山裾までの限られた平地に形成されており、山裾の赤瓦住宅の集落と背後の山なみからなる美しい農村景観が形成されています。

また、佐波川水系の徳地地域には、公共施設や生活サービス施設が立地した堀地区や、昭和の商店街の雰囲気が残る島地地区の市、石垣の棚田が川に沿って続く三谷地区などがあります。三谷地区では棚田オーナー制度を通じて、地域資源の活用と交流を図るとともに、特徴ある棚田の景観が保全されています。

仁保地区では、茅葺き屋根の嘉村礪多生家が背後の山地と調和して、地区の原風景を留めています。また、地域の拠点として整備された道の駅「仁保の郷」は、休日やイベント時に市内外より多くの人々が訪れる交流の場となっています。



佐波川沿いの農地

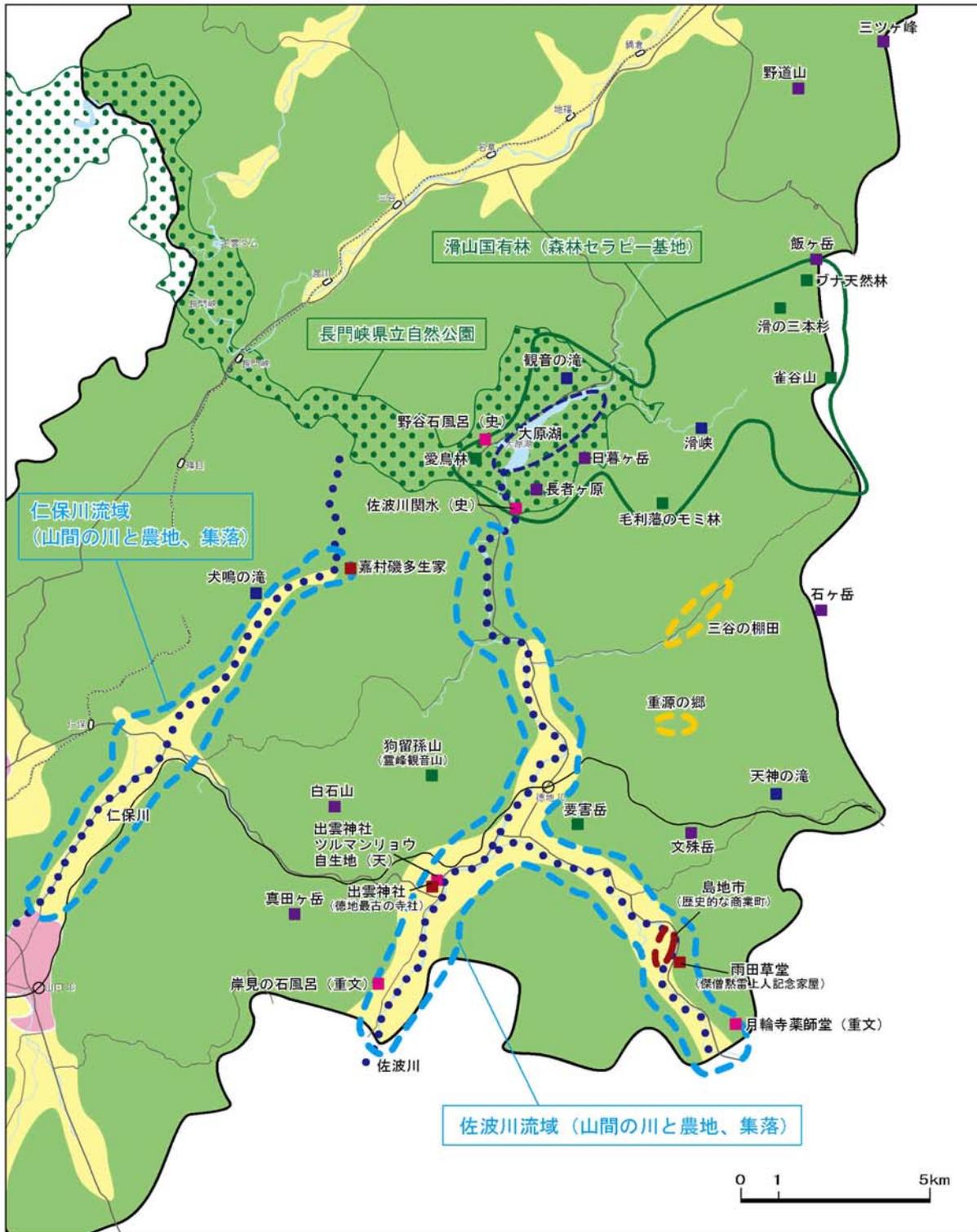


石垣の棚田(徳地地域三谷地区)

【佐波川水系・仁保川を中心とした景域の景観要素】

分類	概要
自然・風土	佐波川、仁保川、大原湖、 ^{なめらぎょう} 滑峡、滑の三本杉、山なみ、山頂からの眺めなど
生業・生活文化	川沿いの農地、赤瓦住宅の農村集落、三谷地区の棚田 など
歴史・文化	嘉村礪多生家、岸見の石風呂 など
都市・生活環境	堀地区、島地地区の市、道の駅「仁保の郷」、パラボラアンテナ など

佐波川水系・仁保川を中心とした景域における景観資源の分布



- | | | | | | | |
|------|---------|---|-------------|---|-------------|---|
| ●●●● | 水辺（河川） | ■ | 山なみの眺望（視点場） | ○ | 特徴ある生業の景観 | <土地利用>
■ 山地・丘陵地
■ 農地・集落地
■ 市街地 |
| ○ | 水辺（ダム湖） | ■ | 文化財・天然記念物 | ○ | 流域のまともりある景観 | |
| ■ | 滝・渓谷等 | ■ | 地域における歴史的資源 | ○ | 歴史的な集落 | |
| | | ■ | 主な樹林地 | | | |

(3) 山口盆地を中心とした市街地の景域

① 青垣の山なみと市街地からなる盆地の景観

市街地をぐるりと囲む青々とした山の稜線は、山口らしさを印象づける特徴ある景観です。この特徴ある景観は、大内氏が山口盆地に居館を移した際に、同じ盆地形の京都に模した都市整備を行い、また、京の文化を取り入れたことから、「西の京」と呼ばれるに至る歴史的背景とともに、日常的に目にすることのできる自然景観として、多くの市民の誇りや親しみの対象となっています。



市街地と山なみ（亀山公園からの眺め）

② 歴史的な道すじと古いまちなみ

本市の中心市街地周辺には、国宝瑠璃光寺五重塔をはじめとした大内氏ゆかりの文化財が点在しており、萩往還や石州街道などの旧街道沿いでは、古民家再生などまちなみ保全のための取組みが見られます。



住宅地と山なみ（住宅地からの眺め）

また、歴史的な道すじである旧山陽道沿いには、かつての宿場町（小郡宿）や市（嘉川市）といった当時のまちなみの面影が残っています。



萩往還沿いのまちなみ

③ 多様な施設や店舗が集まる中心商店街と温泉街の景観

多様な店舗が集積した中心商店街は、休日やアートイベントを中心に多くの人々が訪れてにぎわうとともに、周辺のパークロードや一の坂川などでは並木や花々が季節を彩り、訪れる人々を和ませ、憩いの場として多くの人に親しまれています。



中心商店街（アーケード街）



通りに面する店舗

また、歴史的な湯治場である湯田温泉街は、多くの旅館や飲食店がまとまって立地する市街地立地型の温泉地であり、路地や公園に足湯が整備されるなど、温泉街ならではの景観を見ることができます。



湯田温泉のまちなみ

④ 広域交通網が結節する新市街地の景観

新山口駅は小郡地域の中心部に位置し、JR山陽新幹線やJR山口線、JR山陽本線、JR宇部線が乗り入れ、周辺の中国道や国道9号、国道2号などの道路と結節する本市の広域的な玄関口となっています。駅北地区には多くの店舗や宿泊施設があり、近年になって基盤整備が進められた駅南地区では、広域交通の利便性の良さからホテルや事業所、集合住宅等の集積が進み、新しいまちの景観が形成されています。



新山口駅周辺（石ヶ坪山からの眺め）

⑤ 榎野川沿いに広がる市街地の景観

榎野川沿いには中低層建築物が集積した住宅地や集落地などの市街地が広がり、快適な暮らしの場となっている景観が見られます。また、市街地周辺には、まとまった農地と集落が形成されており、背景の山なみとともに、市街地に身近な美しい田園景観が形成されています。

榎野川では、豊かな水を湛える潤いのある景観を見ることができるとともに、河川敷には河川敷公園が整備されるなど、市民に親しまれる水辺空間となっています。

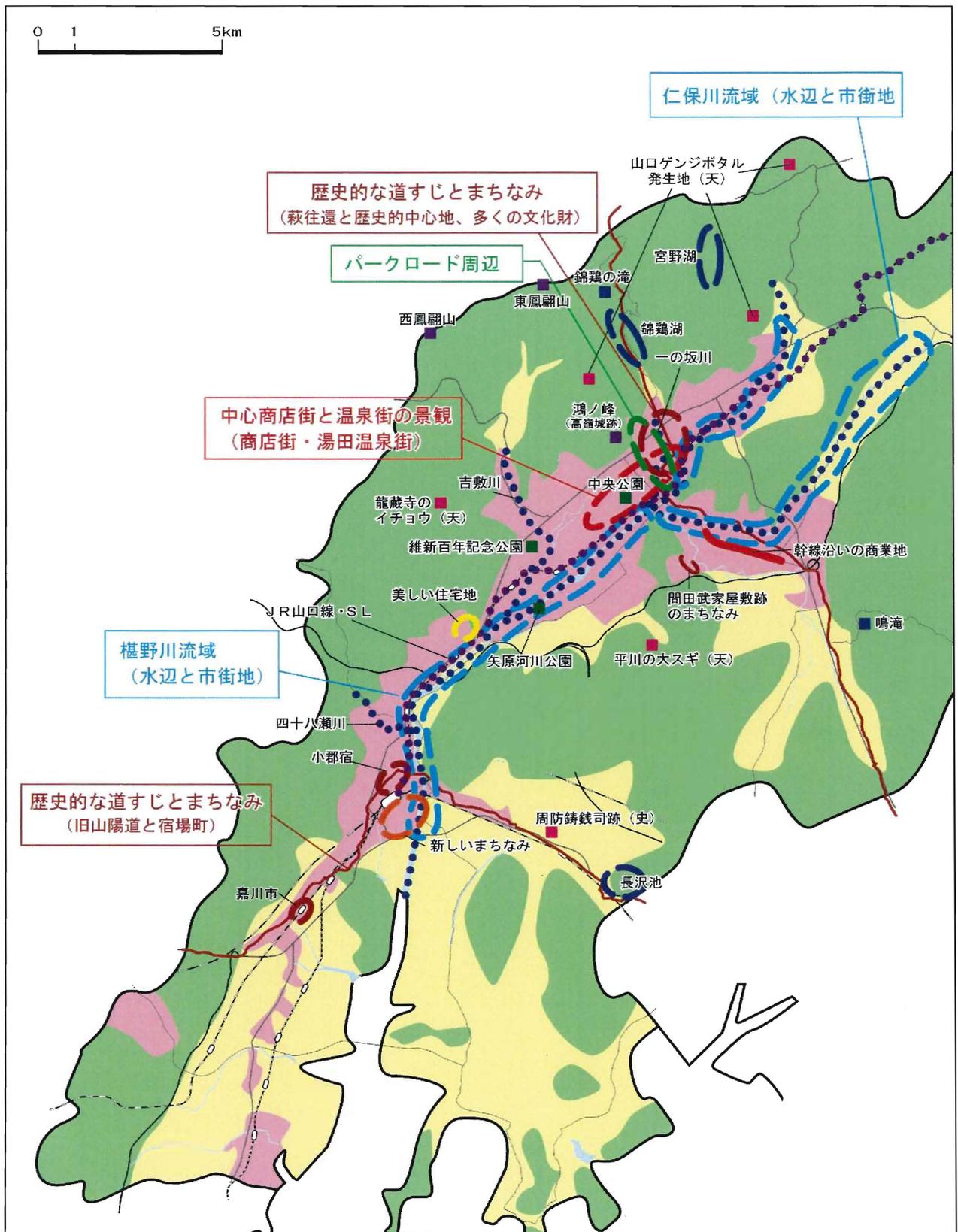


住宅地

【山口盆地を中心とした市街地の景域の景観要素】

分類	概要
自然・風土	山なみ（東鳳扇山、高倉山など）、榎野川、一の坂川 など
生業・生活文化	市街地周辺の農地、祭礼（祇園祭、山口セタちょうちんまつり、天神祭など） など
歴史・文化	大内氏ゆかりの史跡（瑠璃光寺五重塔など）、萩往還・石州街道沿いのまちなみ など
都市・生活環境	中心商店街、JR新山口駅、パークロード、維新百年記念公園、中央公園 など

山口盆地を中心とした市街地の景域における景観資源の分布



(4) 榎野川河口から瀬戸内海沿いの景域

① 広がりのある美しい農地と集落の景観

榎野川下流から河口部にかけて、整備された農地が広がり、夏には一面の緑、秋には黄金色と、季節ごとに美しい景観を見ることができ、多くの市民に身近な美しい田園景観として親しまれています。また、これらの農地では、農閑期となる春には菜の花畑が一面に整備され、市内外から多くの人々が訪れる季節の風物詩となっています。

朝日山等の高台からは、榎野川河口部に広がる農地と集落、その向こうに広がる瀬戸内海への眺望を楽しむことができ、広がりのある美しい自然景観として、多くの市民に親しまれています。



農地と集落（秋穂二島地区）



菜の花畑



あいお荘からの眺め



榎野川河口の干潟と渡り鳥

② 瀬戸内海と榎野川の美しい水辺の景観

穏やかな瀬戸内海と入り組んだ海岸線からなる秋穂半島の景観は、美しい自然景観として多くの人に親しまれており、草山公園やあいお荘、善城寺などの高台からは、これらの美しい眺望を楽しむことができます。

榎野川の河口部に広がる干潟や、阿知須干拓地に整備されているきらら浜自然観察公園は、カブトガニや渡り鳥の飛来など多様な生き物の生息地となっており、豊かな自然景観を見ることができます。

また、榎野川河口部にかかる周防大橋は、榎野川河口のシンボリックな景観として、河川周辺や藤尾山公園等からの眺望が市民に親しまれています。

③ 港とまち・集落からなる景観

秋穂地域には、豊かな瀬戸内海を漁場として漁業集落が点在し、海と港と集落からなる生業と共にある景観が形成されています。

また、阿知須地域の縄田地区は、萩藩政の時代に廻船業で栄えた地区であり、現在も白壁の居蔵造りの住宅が建ち並び、井関川の常夜灯とともに当時の港町の面影を残しています。

居蔵造りの
まちなみ
(阿知須地域縄田地区)

漁港の風景（大海漁港）

④ 多くの寺社と霊場巡礼文化の景観

秋穂八十八ヶ所霊場は、江戸時代に遍明院の住職とその弟子が秋穂地域の寺社を中心に札所を設けたことを起源とした地域固有の文化であり、毎年春のお大師まいりの際には、多くの人々が訪れます。また、これらの寺社には、御神木となる巨木や古木が多く見られ、地域の人々によって大切に保全されています。

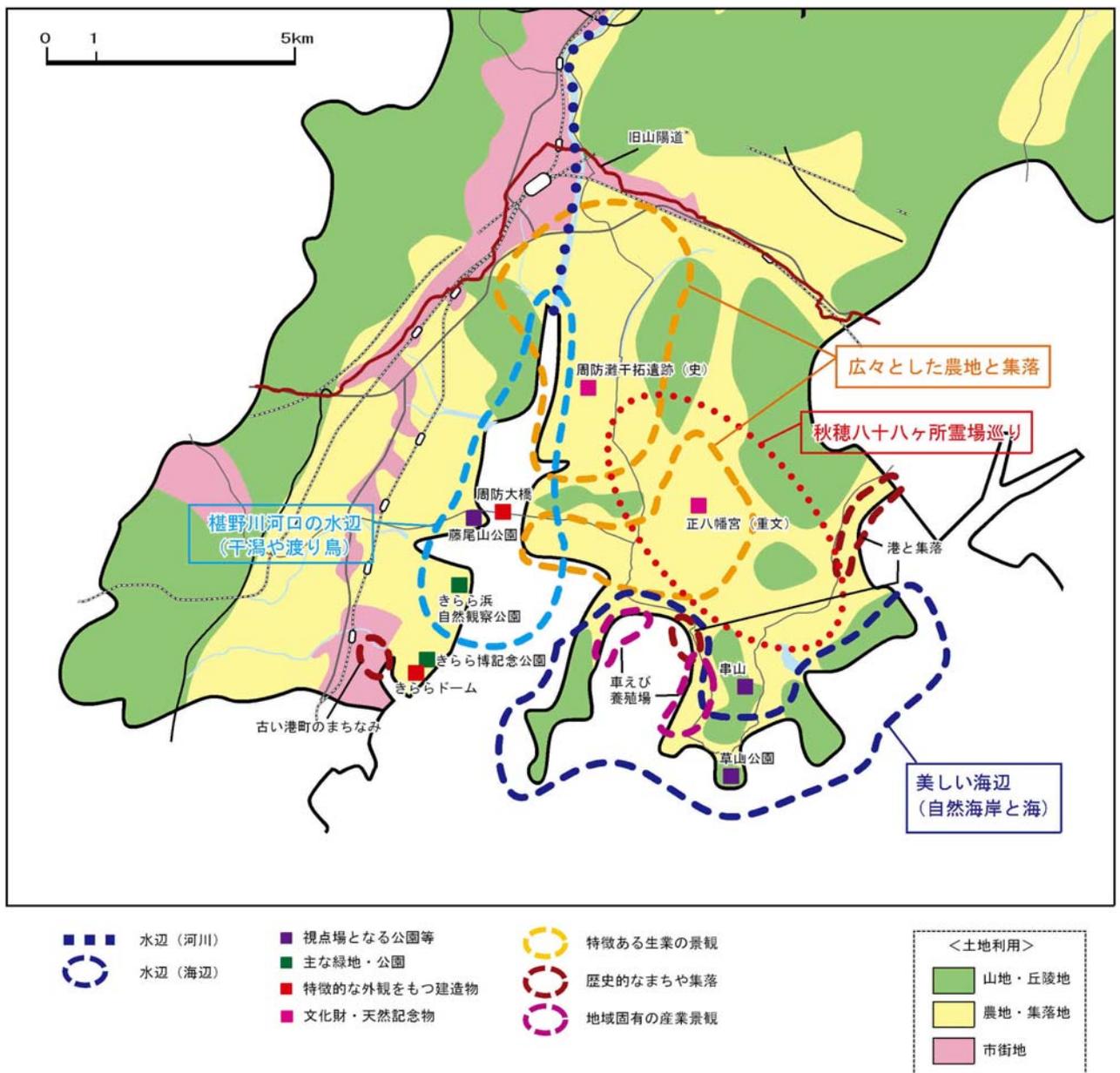


正八幡宮

【榎野川河口から瀬戸内海沿いの景域の景観要素】

分類	概要
自然・風土	榎野川河口、干潟、海岸 など
生業・生活文化	広大な農地、漁港、車エビ養殖場 など
歴史・文化	阿知須縄田地区、秋穂八十八ヶ所霊場巡り、正八幡宮(秋穂地域) など
都市・生活環境	JR宇部線、周防大橋、山口きらら博記念公園、草山公園(秋穂地域) など

榎野川河口から瀬戸内海沿いにおける景観資源の分布



3-2. 広域的なシーケンス景観 ～移動に伴い変化する景観～

道路や鉄道は、移動に伴い、市内の多様に変化する景観を目にすることのできる視点場であり、市民は日常的な移動や地域間の交流を通して、その変化する景観に親しんでいます。

本市には、瀬戸内海から盆地、山間地を結ぶ主要な幹線道路や鉄道が通っており、広域的な移動に伴って目にするシーケンス景観は、本市の景観特性の一つとなっています。

(1) 道路景観

国道9号や国道190号、県道山口阿知須宇部線は、市内を南北に縦断する幹線道路であるとともに、移動に伴い変化する景観を目にすることのできる山間地から盆地、瀬戸内海沿いまでの連続したルートとして、多くの市民に親しまれています。

また、新山口駅から榎野川河口部を中心に、南部を回遊することができる幹線道路では、海への眺望や田園景観など、多様な視点場から美しい景観を見ることができ、多くの市民に親しまれています。

(2) 鉄道景観

JR山口線、JR宇部線、JR山陽本線は、景域間を結ぶ日常的な公共交通であり、車窓からの眺めは、多くの市民になじみ深いシーケンス景観の一つです。

特に、JR山口線では、夏期を中心にSLやまぐち号が運行しており、車窓からは、市街地や山林が流れるように移り変わる様や、トンネルを抜けると広がる田園と集落の風景など、次々と変化していく景観を楽しむことができます。

JR宇部線、JR山陽本線では、田園地帯の丘陵地が徐々に鉄道敷きに迫る山地に変わっていく様子などの景観の変化を楽しむことができます。



連続する道路の景観
(国道9号、国道190号、
県道山口阿知須宇部線)



鉄道の景観
(JR山陽本線、
山口線、宇部線)

南部を回遊する道路の景観
(主) 宇部防府線、(主) 山口小郡秋穂線
(一) 山口阿知須宇部線)



4. 山口市の景観に関する市民意向

良好な景観形成(保全と創出)を進めるにあたって、市民や事業者、行政の一人ひとりが景観に対する意識を高め、また、景観形成の担い手であることを認識する必要があることから、市民アンケートやワークショップを実施し、市民が自慢に思う景観の抽出を行うとともに、景観形成に関する市民意向の把握を行いました。

◆市民が自慢に思う景観 ～景観づくり市民ワークショップ成果より～

～阿東地域～

- 平成 22 年 3 月実施
- 好きな景観・自慢できる景観（主な意見）
- 【自然・風土】
 - ・長門峡、生雲溪の自然
 - ・十種ヶ峰等からの眺め、国道からの十種ヶ峰
- 【生業・生活文化】
 - ・りんご園、梨園、ソバ畑、広々とした田園
 - ・生雲八幡宮の奴道中
- 【歴史・文化】
 - ・常徳寺の雪舟庭
 - ・蔵目喜鉢山跡
- 【都市・生活環境】
 - ・田園の中を走るSL など

～北部ブロック～

（仁保・徳地地域）

- 平成 21 年 9 月実施
- 好きな景観・自慢できる景観（主な意見）
- 【自然・風土】
 - ・佐波川、仁保川沿いの眺め
 - ・犬鳴の滝と溪流
 - ・大原湖キャンプ場の銀杏
 - ・金毘羅山、文殊岳、白石山
- 【生業・生活文化】
 - ・三谷や柚木の棚田、島地の昭和のまちなみ
- 【歴史・文化】
 - ・嘉村磯多の生家
- 【都市・生活環境】
 - ・仁保駅周辺とSL、パラボラアンテナ など

～中部ブロック～

（山口北部地域）

- 平成 21 年 9 月実施
- 好きな景観・自慢できる景観（主な意見）
- 【自然・風土】
 - ・一の坂川と桜、ホテル
 - ・榎野川、吉敷川、鳴滝川の眺め
 - ・鴻ノ峰や亀山公園からの眺め
 - ・東西の鳳翫山、盆地を囲む山なみ
- 【歴史・文化】
 - ・萩往還のまちなみ、古い商家
 - ・龍福寺の参道
- 【都市・生活環境】
 - ・パークロード沿いの美術館
 - ・湯田温泉街、足湯 など

～南部ブロック～

（山口南部・小郡・秋穂・阿知須地域）

- 平成 21 年 9 月実施
- 好きな景観・自慢できる景観（主な意見）
- 【自然・風土】
 - ・榎野川沿いの眺め、井関川沿いの桜やつつじ
 - ・美濃ヶ浜、きらら浜
 - ・陶ヶ岳、藤尾山、串山からの眺望
- 【生業・生活文化】
 - ・名田島の菜の花、レンゲ畑、麦秋
 - ・圃場整備された広々とした農地
- 【歴史・文化】
 - ・阿知須の居蔵造りのまちなみ
 - ・秋穂八十八ヶ所霊場巡りの光景 など

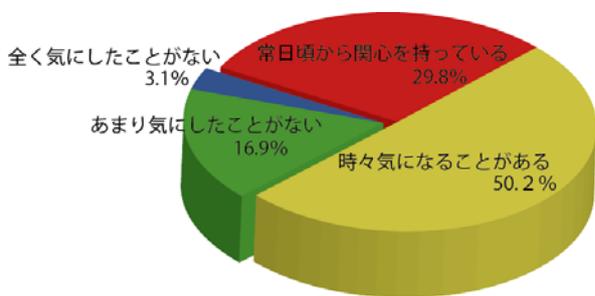
◆景観形成に関する市民意向

平成19年9月、18歳以上の市民2,500名を対象に、アンケートによる市民意識調査を実施しました(回収率:32.4%)。

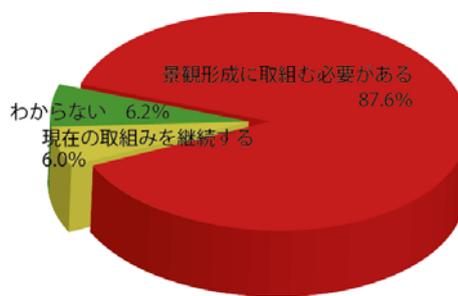
■ 景観形成の必要性

居住地やその周辺地区の景観については、常日頃から関心を持っている人が約3割、また、時々気になることがあるという人が半数以上と、景観に対する関心度は高いといえます。

山口市の景観を「良い」「どちらかというが良い」と感じている人が半数近くいるものの、約2割の人が「悪い」「どちらかという悪い」と感じており、また、約9割近くの人が良好な景観形成に取り組む必要があると感じています。



景観に対する関心

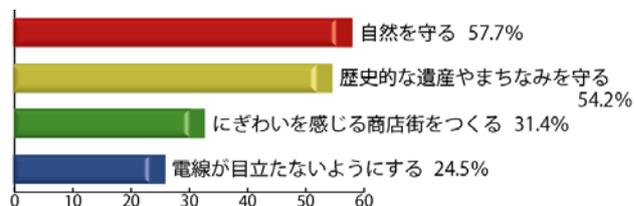


景観形成の取組みの必要性

■ 魅力的な景観形成に向けて

○景観を守る・景観を創る

山口市の景観をより魅力的にするためには、「山なみや河川、海などの自然を守る」「歴史的な遺産とその周囲のまちなみを守る」ことが重要と考えている人が半数以上を占めており、次いで「歩いて楽しくにぎわいを感じる商店街をつくる」「電線をできる限り目立たないようにする」となっており、また、約2割の人が「地域ごとの景観づくりのルールを定める」ことが必要と感じています。



より魅力的な景観を形成するために必要な取組み

○協働の取組み

良好な景観形成を進めるうえでは、景観形成の目標や方針を示すとともに、景観に関する情報を提供することが重要と考えている人が多く、また、景観の専門家の派遣や表彰制度の活用など、景観形成に関わる活動の維持・継続のための支援が必要とされています。

5. 山口市の景観形成における課題

本市の景観特性を踏まえて、地域固有の景観を育み、将来に継承していくための課題として、次のように整理することができます。

■ 自然を意識した景観形成が課題です

本市は、山や川、海などの豊かな自然に恵まれており、それらは市街地や農地、集落地の背景として、本市の景観を特徴づける重要な要素となっています。その一方で、土地利用の高度化や建築形態の多様化により、自然との調和が図られない景観も見られるようになっていきます。

本市の美しい景観を保全・形成していくには、恵まれた豊かな自然との調和を図るよう自然を意識した景観形成が必要です。

- ◆ 市街地周辺の農地が広がる地域では、小規模な宅地開発が分散したり、大規模な施設が建設されるなど、穏やかで美しい本来の田園景観が失われつつあります。優良な農地は保全しつつ、今ある田園景観と調和した景観形成が課題です。
- ◆ 周囲を囲む山なみが特徴的な山口盆地を中心とする景域では、山の稜線への眺望景観を遮るように建つ高層建築物や、地域のまちなみと調和しない規模で建つ大規模建築物などにより、まとまりある市街地の景観に大きな影響を与えている例も見受けられます。地域を特徴づける山なみ等の自然との調和を意識することによる景域全体としての景観形成が課題です。
- ◆ 国道や県道等の主要幹線道路沿いにおいて、周囲の景観と調和しない建築物や屋外広告物の無秩序な立地により、道路沿いの景観が乱れています。本市は、市街地等の背景として豊かな自然を有していることから、産業活動によるにぎわいと本市固有の美しい自然が調和するよう秩序ある景観形成が課題です。

■ 地域の個性を大切にした景観形成が課題です

それぞれのまちには地域特有の地形や歴史、文化があり、それらが融合して地域ごとに異なるまちなみを形成してきました。このような地域固有の景観は、人々に安らぎや潤いを感じさせ、地域に対する愛着を育てます。

しかしながら、景観は時間の流れにあわせて、社会経済状況や人々の暮らしの在り様の変化に伴い、その形を少しずつ変えていくものであり、地域の個性も徐々に薄れる傾向が見られます。地域が本来持っている歴史や文化等を背景とした個性を生かし、魅力ある景観を育むことが必要です。

- ◆ 美しい田園景観を形成してきた集落内やその周囲において、従来の農家住宅に変わり、全国どこでも見られるような建築様式による建築物等が多く見られるようになっており、農村集落特有の景観が減少しつつあります。
- ◆ 歴史的な街道である萩往還沿いや歴史的な港町では、伝統的な建築様式による町家や

商家等による古いまちなみが残る一方で、個々の敷地での建替えにより、敷地の使い方（大幅なセットバック）や空地化などにより、通りとして景観の連続性が失われる可能性があり、地域固有の歴史を個性として次の世代へ継承するまちなみの保全・形成に向けた取り組みが課題です。

- ◆ 地域固有の文化（秋穂八十八ヶ所霊場巡り等）を生かし、寺社・みち・農地・集落・里山などからなる美しくまとまりある景観の保全・形成に向けた取り組みが課題です。

■ 景観形成にみんなで取り組むことが課題です

良好な景観は、自然や歴史に公共施設、民間施設などのさまざまな景観要素が調和することで形成される市民共有の財産です。しかし、近年、合理性を重視した社会資本整備などが景観形成に影響を及ぼすことが多く見られます。こうしたことから、良好な景観を形成するためには、一人ひとりが良好な景観形成に取り組むとともに、市民や事業者、行政が地域のイメージを共有し、連携・協調して景観形成に取り組んでいく必要があります。